



# WEEKLY REPORT

国際ロータリー 第2760地区 江南ロータリークラブ

2008-2009年度  
国際ロータリー会長 李東建

承認 / 1965年 6月 25日  
例会日 / 毎週木曜日 12時 30分  
例会場 / 江南商工会館 1F 大会議場  
〒483-8205 江南市古知野町小金112  
TEL 0587-54-8132

事務所 / 江南商工会館別館 1F  
〒483-8205 江南市古知野町小金112  
TEL 0587-55-6554 FAX 0587-59-7720  
e-mail kounanrc@beach.ocn.ne.jp  
会長 / 鈴木 健治 幹事 / 庄田 元久 会報委員長 / 岩田 静夫

2009年(平成21年)3月12日(木) 晴 第2179回(当年度第33回)例会

点鐘  
司会  
ロータリーソング  
ゲスト及びビジター紹介

会長 鈴木 健治君  
SAA 澤田 昌久君  
「それでこそロータリー」

愛知江南短期大学 現代幼児学科 教授  
臨床心理士 大河内 修様  
米山奨学生 アーロン・リトル君

会長挨拶

会長 鈴木 健治君

「心を覗き見」

昨年12月、米科学雑誌「ニューロン」にある研究結果が発表されました。脳活動を分析し、人が見ている文字や図形をコンピューター上で再現することに成功したというものです。

まず、縦横10列の100マスがランダムに点滅する画像を見てもらいます。そして、脳活動のパターンを記録し、その上で点滅するマスで文字や図形をランダムに描いた画像を見てもらい、脳活動を測定します。次に前の記録と照合して、コンピューターで見た文字や図形を測定します。その結果、被験者が見た文字とコンピューターが推定した文字はほぼ再現できており、実験は成功となりました。何も条件を決めずに文字や図形が識別できたのは、これが世界で初めてのことです。このシステムが普及すれば、介助の必要な障害者や高齢者が望むものをイメージするだけで、その考えを簡単に読み取ることができるようになるのかもしれない。

もし実現すれば非常に多くの人たちが幸せになれる技術になるのではないのでしょうか。しかし、どんなことにも副作用があるもので、人が頭の中で何を考えているのか、というプライベートなことまで丸わかりになってしまうという危険も秘めています。今回の研究が大きな進歩であることは間違いありません。どのような技術も最後にはそれをどのように使うのかということが大切なのではないのでしょうか。



お別れの挨拶

アーロン・リトル君

みなさん、こんにちは。  
もう一年が経ちましたね。早いものです。この奨学金に応募したとき、今までの奨学金とかなり違うことを学校に知らされました。なぜならこの奨学金はただお金を頂くだけでなく、様々なイベントに参加し、交流したいといけないうことです。いろいろな方々と交流できたら有利じゃないかと思い応募しました。学校にいわれた通り、毎月の例会など様々なイベントに参加する必要がありました。しかしそれは決して苦痛なことではなく、非常にラッキーなことだと思いました。ロータリーの皆さんは一人一人優秀な方で、学んだり、面白い話をしたりする機会が多いのです。新しい方々と交流することが一番嬉しいことでした。そしてロータリーの皆さんのおかげでこの貴重な体験が出来たので、とても感謝しています。ありがとうございます。



私は日本でずっと職を探していましたが、思い通りには行きませんでした。しかし、フリーランス翻訳者としての仕事が増えているので仕事を更に増やし、これからこの仕事を続けていきたいと考えています。もし翻訳者が必要となった場合、是非利用して頂きたいです。連絡先を差し上げます。

日本人の婚約者ができ、これから結婚し、アメリカに帰ることを予定しています。結婚やビザの手続きでしばらく日本に滞在することになると思います。また何かのご縁で再会できる事を楽しみにしています。ご清聴ありがとうございました。

[aaroninniigata@hotmail.com](mailto:aaroninniigata@hotmail.com)

2009～2010 年度地区委員委嘱状伝達

山田 猛君

ロータリー財団委員  
会委員、年次寄付  
委員会委員長  
ロータリー世界平和  
フィロ・ソップ委員



幹事報告 別紙 幹事 庄田 元久君  
 祝 福 別紙 委員 豊田 耕彌君  
 出席報告 委員長 熊澤 治夫君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
52名	36名	16名	78.26%
前々回(2月28日)欠席者 1名 補正出席率 97.8%			

**ニコボックス 副委員長 岩田 俊久君**  
 代理紹介者の石川先生、今日のご苦労様です。  
 大河内 修様、本日は宜しくお願い致します。  
 アーロン君の元気な顔を見れた喜び、そして卒業おめでとうございます。  
**鈴木 健治、尾関 憲市、庄田 元久、松井 智義各君**  
 シングル記念コンペでご心配をかけておりますが宜しくお願い致します。 **岩井 正彦君**  
 アーロン卒業おめでとうございます。 **杉浦 賢二君**  
 本日の大河内先生、ありがとうございます。卓話楽しみに拝聴させていただきます。  
 又、先日の夢の環境へのメッセージ展 皆様のご協力により無事終了しました。ありがとうございます。  
**石川 裕君**  
 愛知江南短期大学教授 大河内 修様  
 本日の卓話宜しくお願いいたします。  
**栗本 務、岩田 進、岩田 俊久、安藤 喜代司、熊澤 治夫、松岡 一成、岩田 静夫 各君**

**本日の卓話**

**「子ども虐待の最前線から」  
 愛知江南短期大学 教授 大河内 修様**



子ども虐待の問題がマスコミでもクローズアップされるようになってから10年以上の年月が経ちますが、悲惨な事件は相変わらず続いています。その間、児童福祉法や虐待防止法が何度も改正され、対応方法も次第に整備されてきました。

私は、昨年まで県の児童相談所に勤務し、虐待への対応業務に従事してまいりました。今日は、これまでの経験をもとに、児童相談所の職員が虐待家族を前にして、どのようなことを考え、どのようなことをしているかについて具体的にお話させていただきます。

児童相談所における虐待への対応は、市町の福祉事務所、学校、保育所、病院、警察などの通報から始まります。通報があると直ちに緊急受理会議を開催し、所全体で対応を検討します。通行の電話は365日24時間来ますから、深夜の場合は大変です。関係者を電

話で起こし、車を飛ばして事務所に集合するという経験を何度もしました。

通常は、市町の協力を得て、虐待の状況についての情報を収集します。その上で、子どもとの面接、親との面接を行います。緊急を要する場合には、その場で子どもを保護することも行います。最近では、子どもを保護するための施設が足りないため、親子分離が必要な場合には、施設を探すのに四苦八苦します。

親との面接では想像を超えるようなドラマが演じられます。虐待を行う親にとっては、突然、見知らぬ人間がやってきて、虐待を調査し、子どもを自分たちの意思に関係なく連れ去ってしまうわけですから、混乱し、怒鳴り散らします。

親のやった虐待行為を「わが子に対する愛情の誤った表現」と理解し、親の私たちに向ける攻撃を「わが子や自分自身に対する自分ではどうしようもない苛立ちや絶望の表れ」と受け止めながら、根気良く面接を重ねていくことにより、親は他者とのかわりにおいて暴言・暴力を必要としない親に変化していきます。

虐待の病理は複雑なため、関係機関の連携が重要になります。警察、医療機関、保健所、教育委員会、児童相談所、民生委員、福祉事務所、市町の保育担当課、虐待担当部門などがメンバーとなり、要保護児童対策知育協議会を設置します。関係機関が得た情報を持ち寄り、親子の支援のためにそれぞれの機関のできることを検討します。

家庭の父親の失職による経済的な問題と母親の育児不安が背景となった虐待を例にとって説明します。

民生委員の知り合いに児童問題に理解のある工場経営者がいました。事情を理解してもらった上で、父親の再就職が決定しました。市の保育担当課は子どもの保育所への入所を決定しました。入所後は、保育所が親子の見守り機能を果たしました。親の育児不安への相談は保健所の保育師が担当し、定期的に家庭訪問を行いました。

このように、関係機関が相互に連携を持ちながら家族への支援を行うことにより、悲惨な状況に至らない親子が少しずつ増加してきました。

家庭の養育機能が脆弱になった今、子育てを支援する環境を新たに構築することが強く求められています。

(担当:岩田静)

**米山奨学生  
 アーロン・リトル君  
 送別会**

3月12日  
 ポモ・ドーロ

